

履 修 要 項

I	授業科目の構成	1
II	単位の計算方法	1
III	卒業に必要な単位数	1
IV	履 修 登 録	2
V	授 業	3
VI	学 籍 異 動	5
VII	試 験	5
VIII	単位の修得および学業成績	8
IX	単 位 互 換	8
X	海外研修制度	10

この履修要覧は入学年度（新入生）にのみ配付いたします。新入生の皆さんは、この履修要覧を卒業するまで大切に保管してください。（※紛失しても再配付はできません。）

この履修要覧には、学則等の規則や、本学学生として在学中に必要な事項が記載されていますので、よく読んでください。

なお、履修要覧の記載に変更が生じた場合は、掲示等でお知らせします。

就実大学・就実短期大学
教務課

〒703-8516

岡山市中区西川原1-6-1

TEL : 086-271-8120

FAX : 086-271-8119

E-mail : kyoumu@shujitsu.ac.jp

平成29年4月1日発行

履 修 要 項

授業科目の履修に関して、学則に明示されていない細則は、この履修要項に定めるところによります。

I 授業科目の構成

1. 本学において開設する授業科目は、次のとおりです。

- (1) 教養科目
- (2) 専門教育科目
- (3) 諸課程に関する科目
 - a 教職に関する科目（幼児教育学科・生活実践科学科）
 - b 保育士に関する科目（幼児教育学科）
 - c 学校図書館司書教諭に関する科目（生活実践科学科）
 - d 図書館司書に関する科目（生活実践科学科）
 - e 秘書士に関する科目（生活実践科学科）
 - f 秘書士（メディカル秘書）に関する科目（生活実践科学科）
 - g 情報処理士に関する科目（生活実践科学科）
 - h プレゼンテーション実務士に関する科目（生活実践科学科）
 - i 介護職員初任者研修に関する科目（生活実践科学科）

2. これらの授業科目は、履修の方法により、次のように分類されます。

- (1) **必修科目** 必ず履修しなければならない授業科目で、この必修科目のすべての単位を修得しなければ卒業することができません。
- (2) **選択必修科目** 定められた枠の中から各自が選択履修し、所定の単位数を必ず修得しなければならない授業科目です。
- (3) **選択科目** 各自が自由に選択し履修する授業科目です。ただし、学則に定める卒業に必要な単位数を充足するように選択履修してください。

II 単位の計算方法

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修などを考慮して、次の基準により計算するものとします。

1. 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
2. 演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
3. 実験・実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

III 卒業に必要な単位数

本学を卒業するためには、それぞれの学科所定の科目・単位を次表のとおり修得しなければなりません。

	幼児教育学科	生活実践科学科	
教 養 科 目	10	10	} 10
専 門 教 育 科 目	52	42	
総 単 位	62	62	

IV 履 修 登 録

1. 履修登録上の注意事項

- (1) 授業科目の履修は、学則第22条の規定に従って、各年次に履修すべき授業科目を考慮して計画を立ててください。
- (2) 一度登録した授業科目の変更は後期追加登録以外原則として認められないので、履修登録の際には慎重に履修計画を立ててください。
- (3) 登録した授業科目は、途中で放棄することなく必ず履修し、試験を受けてください。途中で放棄したり、試験を受けなかった場合は、不合格となります。
- (4) クラス指定あるいは学科指定のある授業科目は、原則として指定された時間に履修してください。
- (5) 特定の授業科目および特定の教室を使用する授業科目については、履修人数を制限する場合があります。
- (6) 1年次に配当されている授業科目は、原則として1年次に履修してください。その他の年次においても同様です。
- (7) 1年次生は2年次に配当されている授業科目を履修することはできません。
- (8) 同一時限に2科目を重複して登録受講することはできません。
- (9) 過年度に、合格点を得た科目を再度登録することは認められません。
- (10) 後期科目の追加登録をすることができます。なお、後期追加登録時に、後期科目の削除も認められます。

2. 登録申請ならびに手続方法

学生は、後期履修する授業科目を含め各年次において単位を修得しようとする授業科目について、各自登録する必要があります。授業科目の登録は、履修登録日程の要領に従って年度の当初に行ってください。この登録を怠ると、その年度の授業および試験を受け単位を修得することができないので十分注意してください。

- (1) 年度始めのオリエンテーション（「履修指導」）の際、担当教員から説明を聞き、「授業科目時間割表」、 「履修要覧」（授業科目表・履修上の注意）および「SYLLABUS」（授業計画）を参照して、各年度に履修しようとする授業科目を決定してください。
- (2) この全授業科目（必修、選択、選択必修、集中）はすべて年度始めのオリエンテーション履修指導時に配付される「履修登録下書用紙」に記入してください。
- (3) 指定された日時に「履修登録下書き用紙」を持参し、情報教室のパソコンを使って、履修希望科目の申請を行ってください。（Web履修申請）
- (4) 履修申請した科目について、後日「確認リスト」を配付するので指定された場所で履修登録もれや誤りがないかを確認してください。

1ヵ所でも履修登録もれや誤りを発見したら、指定された情報教室のパソコンで訂正してください。（後日教務課で再確認）そのまま放置しておく、授業・試験を受けても単位認定されないので注意してください。

- (5) 「確認リスト」に間違いがなければ、氏名の右横に印鑑を押して提出してください。その後の追加・削除・訂正には一切応じられません。
- (6) 後期科目追加登録（削除）希望者は、指定された日に手続きを行ってください。

V 授 業

1. 授業時間

平常の授業は、時間割表に従って次の時間で行われます。

I 時限	9 : 10～10 : 40	II 時限	10 : 50～12 : 20
III 時限	13 : 10～14 : 40	IV 時限	14 : 50～16 : 20
V 時限	16 : 30～18 : 00	VI 時限	18 : 10～19 : 40

2. 休 講

授業担当者がやむを得ない事情で授業を休講する場合は、事前に掲示により伝達します。休講掲示がなく、始業時より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務課へ申し出て指示を受けてください。

3. 臨時休講

警報発令の際の取扱い

午前7時に岡山県岡山地域に暴風警報または特別警報が発令されている場合は臨時に休講とします。(大雨警報・洪水警報の場合は休講としません)

ただし、午前10時までに暴風警報または特別警報が解除された場合は、Ⅲ時限から授業を実施します。

休講となった場合には、後日補講を行います。

4. 欠 席

(1) 欠 席 届

授業を欠席する場合は、「欠席届」を授業科目担当者になるべく事前に届け出ましょう。もし事前に届けられなかった場合は、事後すみやかに届け出てください。

(2) 長期欠席届

7日以上病気欠席の時は、医師の診断書を添えて所定の用紙に記入し、教務課に届け出てください。

(3) 公 欠 届

公欠届は下記の場合に限り、所定の用紙に記入し、教務課に届け出てください。

※ただし、補講および集中講義については、原則として公欠は認められません。

①諸課程の単位修得のための実習期間など。

②学校保健安全法及び同法施行規則に定める感染症（別表参照）にかかった時。(出席停止期間証明書または診断書が必要です)

・別表の感染症と診断された場合には、速やかに教務課まで電話で報告してください。

・治癒後に受診機関より「出席停止期間証明書」または「診断書」の交付を受け、授業公欠届（教務課申請用）とともに届け出てください。(必ず治癒後に届け出てください。感染拡大を防ぐため、出てきてはいけません。)

※その他の感染症以外の診断書については病名・出席停止期間の記載のあるものに限る。

※〔第3種〕のその他の感染症は「出席停止期間証明書」(本学様式)に限る。

(授業公欠届(教務課)及び出席停止期間証明書は、履修要覧巻末または学内専用ページ(web)からダウンロードして下さい)

感染症についての出席停止期間の基準

学校保健安全法施行規則（平成27年1月21日改正）

感染症の種類		出席停止期間の基準 (以下の基準に基づき、主治医が判断する)
[第1種]	エボラ出血熱	治癒するまで
	クリミア・コンゴ出血熱	
	痘そう	
	南米出血熱	
	ペスト	
	マールブルグ熱	
	ラッサ熱	
	急性灰白髄炎	
	ジフテリア	
	重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスに限る）	
	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスに限る）	
	特定鳥インフルエンザ	
	新型インフルエンザ等感染症	
新感染症		
[第2種]	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん	発疹が消えるまで
	水痘（みずぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱（プール熱）	主な症状がなくなって2日を経過するまで
	結核	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで	
[第3種]	コレラ	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
	細菌性赤痢	
	腸管出血性大腸菌感染症	
	腸チフス	
	パラチフス	
	流行性角結膜炎	
	急性出血性結膜炎	
その他の感染症 (学校医その他の医師において感染のおそれがあり出席停止の措置が必要と認める感染症)※		

※第2種については、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。

※第3種のその他の感染症については、「出席停止期間証明書」に限る。（診断書は無効）

③ 忌引によるもの（会葬礼状等の証明書類が必要） ※忌引の適用される親族と日数

- ・ 1 親等の親族（父母）の場合は連続した7日間まで（休日を含む）
- ・ 2 親等の親族（祖父母・兄弟姉妹）の場合は連続した3日間まで（休日を含む）
- ・ 3 親等の親族（曾祖父母・伯叔父母・甥姪）の場合は1日のみ

④ その他

教務部長，各学部長，短大部長，各学科長などの協議の結果，やむを得ないと認められた場合。

Ⅵ 学籍異動

1. 休学・復学

休学をする場合は、事前にクラス担任または指導教員に相談すること。

休学の願い出は、月日をさかのぼって願い出ることはできません。休学期間の取扱については、教務課で説明を受けて下さい。

(1) 疾病その他やむを得ない事由により3か月以上修学することのできない者は、保証人連署のうえ学長に願い出、その許可を得て休学をすることができます。

疾病による場合は、医師の診断書を添付する必要があります。

(2) 休学中は、当該期間の単位を修得することはできません。

(3) 休学できる期間は休学願を提出する月の翌月以降、月初めから1か月単位で、当該年度末までです。

(4) 休学の期間は1年を超えることができません。ただし、特別の事由があると認められた者にあつては引き続き更に1年まで延長することができます。

(5) 休学の期間は、通算して2年を超えることができません。

(6) 休学期間は、学則第4条第2項の在学年限には算入されません。

(7) 休学期間中は、学納金の一部が免除されます。(学則第45条)

(8) 休学期間満了のとき又は休学期間内であってもその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができます。

2. 退学・再入学

(1) 退学しようとする者は、その事由を詳記し、保証人連署のうえ、学長に願い出、その許可を得る必要があります。前期末退学を希望する者は、9月30日後期末退学を希望する者は、3月31日までに、事前に担任に相談をし承諾を得た上で、教務課に申し出てください。

(2) 願いにより本学を退学した者又は第41条第1号により除籍された者が、再入学を希望するときは選考のうえ入学を許可することがあります。

3. 転学科

本学に在学中の者が転学科を希望するときは、選考のうえ、許可することがあります。

4. 除 籍

次に該当する者は、教授会の意見を聴き、学長が除籍します。

(1) 授業料その他の学納金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者。

(2) 学則第4条第2項に定める在学年限を超えた者。

(3) 学則第39条第1項に定める休学期間を超えてなお修学できない者。

(4) 長期間にわたり行方不明の者。

(5) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者。

5. 復 籍

除籍になったものが除籍通知後1年以内に未納の学納金を納付し、復籍の願い出があつた場合には、教授会の意見を聴き、学長が復籍を許可することがあります。その場合、除籍前に修得した授業科目及び単位数の全部又は一部をすでに修得したものとして認めることがあります。この認定は教授会の意見を聴き、学長が行います。

Ⅶ 試 験

単位を修得するためには、その授業科目を履修登録した上で、その授業を受け(予習・復習・課題などの時間を含む)、かつ本学で施行する試験に合格しなければなりません。また、履修登録していない科目を受験しても単位を修得することはできません。

1. 試験の方法

試験は、それぞれの授業科目に応じて筆記・口述・レポート・論文・作品の製作・実技などによって行います。

2. 試験の種類

(1) 学期末試験

学期末試験は原則として定期試験期間内に行われます。ただし定められた時間内に試験を行うことが困難な科目（複数開講の科目、受講生が多い科目など）は、スケジュール調整が行われることがあります。

試験が実施される授業科目名、日時、実施方法、注意事項などは、あらかじめ担当教員または教務課より通知されます。

〈授業科目の不合格発表〉

・後期科目及び通年科目は、卒業年次生のみ2月下旬教務課から学内に授業科目ごとに学籍番号を掲示します。

・幼児教育学科が指定する「^(*) 実習受講のための基準科目」については、1年次生も同様に掲示します。

（※）履修要覧の幼児教育学科専門教育科目一覧参照（P.12・13参照）

(2) 追試験

追試験は、下記に示す病気その他やむを得ない事由により学期末試験を受験できなかった場合に行います。ただし、欠席当日を含め3日以内に教務課へ連絡してください。

① 病気欠席（医師の診断書を提出のこと）

② 就職試験日時との重複（所定用紙にキャリアセンターの証明印を押したものを提出のこと）

③ 忌引（父母は1週間以内、兄弟姉妹祖父母は3日間以内、曾祖父母、伯叔父母、甥姪は1日のみで、死亡を証明する書類（会葬礼状等）を提出のこと）

④ その他特別な事情により、教務部長が正当と認めた場合

（①～③の証明書類は、欠席連絡日から1週間以内に教務課へ提出すること）

(3) 再試験

・卒業年次生で、その年度の試験結果、卒業あるいは資格取得に必要な単位のうち、不足単位数の範囲内（6単位以内の不足がある場合に限る）で再試験を受けることができます。

なお再試験は、当該年度に履修した科目に限るものとし、卒業に必要な科目の単位を修得することを優先とします。

・幼児教育学科1年次生で、その年度の試験結果、「実習受講のための基準科目」のうち、D判定が3科目以内である場合に限り再試験を受けることができます。（D判定が4科目以上である場合、またはE判定が1科目以上である場合は再試験を受験することはできません。）

・欠席が著しく多い（原則として授業回数の1/3以上）とき、試験を無断で欠席したり、授業態度、レポートなどの提出が著しく悪いとき、再試験受験資格を失うことがあります。これは、各授業科目の担当者が総合的に判断します。再試験受験資格の有無は前期科目は成績表により、後期・通年科目は、不合格発表により各自確認してください。

・諸課程に関する科目の単位修得の場合は、上記再試験の規定によらない場合があります。

〈再試験手続〉

教務課所定の用紙に必要事項を記入し、押印の上、受験手数料（1科目1,000円）を添えて出願受付期間内に教務課へ申し込んでください。

再試験の要項は教務課より学内に掲示します。

卒業年次生の再試験の不合格者については、教務課より学内に授業科目ごとに学籍番号を掲示します。

3. レポートの提出

試験にかわるレポートの提出方法は、次のとおりです。

- (1) 本人が、指定された場所（担当教員または教務課など）に直接提出してください。
- (2) 字数や表紙の有無などレポートの様式については、授業科目担当者の指示に従ってください。
- (3) 一度提出したレポートの変更訂正は認められませんので提出前に十分確認してください。
- (4) 提出の締切日時は厳守してください。（事務受付時間は月曜日から金曜日の午前9時より午後4時45分までです）

4. 試験に関する注意事項

(1) 試験の欠席

試験を欠席する場合は、欠席当日を含め3日以内（土日祝日および休業日を除く）に必ず教務課へ電話で連絡してください。（TEL 086-271-8120）

※連絡がない場合は追試験対象にはなりません。連絡方法は電話に限ります。

(2) 受験資格者以外の受験の禁止

受験資格のない者（当該科目を履修登録していない者など）は受験できません。万一間違えて受験してもその成績は無効となります。

(3) 学生証の呈示

学生証のない者は受験できません。学生証は試験中、机上に呈示してください。試験当日、学生証を忘れた者は、教務課で仮学生証（当日のみ有効）の交付を受けなければなりません。

(4) 座席の指定

試験室では指定された席に着いてください。席が指定されていない場合は監督者の指示に従ってください。

(5) 所持品について

机上に置くことが出来る物は、持ち込みを許可されたものと筆記用具に限ります。それ以外のものは各自の足下に置いてください。（原則として下敷きは許可しません）

携帯電話、スマートフォン等については、電源を切り机上に置いてください。

(6) 答案持ち出しの禁止

試験室に入室した者は、必ず答案を提出してください。無断で持ち帰ることは許されません。

(7) 遅刻及び退出

試験開始より20分経過後は入室できません。

監督者が必要と認めれば、試験開始後30分を経過したのち退出することが出来ます。ただし、退出後の再入室は出来ません。

(8) 試験完了後の入室

試験が完了しても、答案回収の整理が終わるまで試験室への入室は禁止します。

5. 試験中の不正行為

試験中、不正な行為が確認された場合、当該授業科目の試験日を含め、以後の受験を停止したうえ、これを学内に公示します。

不正行為をした者の当該授業科目は0点となります。

6. 試験の結果について

成績表を送付しますので、評価など確認ください。

Ⅷ 単位の修得および学業成績

1. 授業科目の授業を受け、かつ試験もしくはそのほかの方法による学習効果の判定において合格したものは、その授業科目の課程を修了したものと認められ、所定の単位が与えられます。
2. 学業成績は、100点満点とし、60点以上を合格、60点未満を不合格とします。
3. 成績の評語は、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、60点未満を不可とします。

点 数	100～90	89～80	79～70	69～60	59以下	
成 績 証 明 書	秀	優	良	可	記載なし(不可)	
成 績 表	S	A	B	C	D	E
再試験受験資格 *(卒業年次生のみ)					有	無

4. 再試験による成績は、最高60点までとします。
5. 合格点を得た授業科目を再度受験することはできません。
6. 成績表は、各学期末に本人及び保証人あてに送付します。また、学生本人には4月の履修指導時に配付します。

※幼児教育学科指定「実習受講のための基準科目」については、1年次生も再試受験資格があります。

Ⅸ 単位互換

本学では就実大学と単位互換協定を結んでいます。これらの科目の単位を履修した場合、卒業要件に含めることができます。

履修説明会：学科の履修説明時に行います。

履修申込期間：（前期）4月上旬（オリエンテーション期間中）

（後期）9月下旬（後期追加削除登録期間中）

申 込 先：教務課

単 位 互 換 科 目 一 覧

※都合により変更になる場合があるため、詳細は教務課に問い合わせること。

総合教養教育科目

基礎経済学	経済学概論	現代人とこころの障害	情報と社会
金融システムと生活	現代日本の企業	漢詩文の表現と心	漢詩文の表現と思想
日本文化論1・2	日本人の思想	ヨーロッパ人の思想	アジア人の思想
日本美術史	西洋美術史	東洋美術史	死生観の歴史
現代の哲学と思想	人類学の世界と歴史	アジアの民族誌	地理学の世界と歴史
現代都市の魅力診断	倫理と価値観の諸相	現代人の倫理と価値観	女性の生活と歴史
現代の女性環境	スポーツ3・4		

表現文化学科専門教育科目

※日本文学入門1・2	※日本語表現入門1・2	※表現創造入門1・2	
古典文学史(2年次生対象)	近現代文学史(2年次生対象)	日本語史(2年次生対象)	言語表現史(2年次生対象)
身体表現史(2年次生対象)			

※原則として就実大学人文科学部表現文化学科に編入学を目指す学生を対象とする。

実践英語学科専門教育科目

イギリス文化研究入門	アメリカ文化研究入門	通訳演習入門	翻訳演習入門
※英文法Ⅰ・Ⅱ	※インターネット英語Ⅰ・Ⅱ	※Extensive ReadingⅠ(2年次生対象)	
※Extensive ReadingⅡ(2年次生対象)		※English ReadingⅠ・Ⅱ	

※原則として就実大学人文科学部実践英語学科に編入学を目ざす学生を対象とする。

※インターネット英語Ⅰ・Ⅱ, English ReadingⅠ・Ⅱはそれぞれセットで履修することが望ましい。

総合歴史学科専門教育科目

日本史入門Ⅰ・Ⅱ	ヨーロッパ・アメリカ史入門Ⅰ・Ⅱ	アジア史入門Ⅰ・Ⅱ	歴史遺産入門Ⅰ・Ⅱ
歴史人物の生と時代Ⅰ・Ⅱ	地域史特殊研究Ⅰ・Ⅱ	吉備地方文化特論Ⅰ-4	考古学の基礎
考古学の現在	古文書学の基礎	古文書解読	哲学の世界と歴史

教育学部専門教育科目

教育の歴史	現代教育の諸問題	心理療法概論
-------	----------	--------

GPA (Grade Point Average) 制度について

本学では、GPA制度を平成26年度から導入します。GPAとは、授業ごとの成績評価（秀，優，良，可，不可）に対応する点数（GP：Grade Point）を付与して、1単位あたりの平均値を算出し一定水準に到達しているかどうかを評価する制度のことです。

◎ Grade Point (GP) は、以下の通りです。

(2013年度以後入学生)

G P A 制度による成績評価				
成績 (評点)	評語 (成績証明書)	標語 (成績表)	G P	判定
90～100点	秀	S	4	合格
80～ 89点	優	A	3	
70～ 79点	良	B	2	
60～ 69点	可	C	1	
0～ 59点	不可	D・E	0	不合格

(注) 卒業年次生に限り不可科目については、一定の条件のもと再試験が実施されますが、E判定で不可になった場合は、再試験の受験資格がありません。

◎ GPAの算出方法

$$GPA = \frac{\text{履修登録科目で得たGP} \times \text{その科目の単位数の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計}}$$

◎ GPAの利用法

GPAは、成績証明書や成績表には記載されず、別途配付する予定です。

GPAは学習状況の把握ができます。例えば、GPAが2以下の場合、それぞれの科目で期待されている達成度よりも低い状態が多いことを示しており、奮起が必要です。また、前の学期よりもGPAが下がっていれば、

学習上に何らかの問題があると思われます。このように、学期毎のGPA値を見ながら、自主的かつ意欲的な履修計画に利用できます。

GPAは、教員による修学指導の他、奨学金、表彰等の対象者の選考に利用されることがあります。

X 海外研修制度

短期海外研修制度

本学が企画する海外語学研修に参加し、研修修了証および所定の書類を提出すると、「国際交流」1単位が認定される。研修先および期間については掲示をよく確認すること。

研修先：(1) 英国 カンタベリー・クライスト・チャーチ大学（約3週間）

(2) アメリカ ハワイ大学マノア校（約3週間）

(3) オーストラリア クイーンズランド大学（約3週間）

(4) 台湾 清華大学（約2週間）

(5) 韓国 祥明大学校（約2週間）

参加資格：①通常の学生生活を送るのに支障のない健康状態であること。

②授業出席率は80%以上であること。

手続：科目としての履修登録は行わず、「単位認定に関わる海外研修申込書」を総合受付カウンターに提出してください（研修申込書は総合受付カウンターに置いてあります）。提出期日については掲示をよく確認すること。

単位認定：短期海外研修終了後、科目の履修登録及び単位認定がなされる。

授業科目および履修方法

I 幼児教育学科授業科目および履修方法

1 授業科目表	11
① 教養科目	
② 専門教育科目	
2 履修上の注意	14

II 生活実践科学科授業科目および履修方法

1 授業科目表	17
① 教養科目	
② 専門教育科目	
2 履修上の注意	20

I 幼児教育学科授業科目および履修方法

1 授業科目表

① 教養科目

	授 業 科 目	単位数	開 講 期	授業形態	履 修 上 の 注 意
			1年・2年		
教 養 科 目	哲 学	2	前 期	講 義	※必修 ※必修 外国人留学生・帰国子女のみ ※必修 ※必修 休講 休講 この中から2単位必修 外国人留学生・帰国子女のみ ※必修
	倫 理 学	2	前 期	講 義	
	歴 史	2	前 期	講 義	
	美 術	2	後 期	講 義	
	音 楽	2	後 期	講 義	
	文 学	2	前 期	講 義	
	心 理 学	2	前期・後期	講 義	
	人 文 地 理	2	前期・後期	講 義	
	社 会 学	2	後 期	講 義	
	法 学	2	前 期	講 義	
	日 本 国 憲 法	2	前 期	講 義	
	人 権 教 育	2	前期・後期	講 義	
	数 学	2	前 期	講 義	
	化 学	2	前 期	講 義	
	生 物 学	2	後 期	講 義	
	キャリアデザイン論	2	後 期	講 義	
	インターンシップ I	1	後 期	実 習	
	インターンシップ II	1	後 期	実 習	
	ボランティア入門	2	前 期	講 義	
	日 本 事 情 I	2	前 期	講 義	
日 本 事 情 II	2	後 期	講 義		
体 育 I (講義及び実技)	1	前 期	講 義		
体 育 II (講義及び実技)	1	後 期	実 技		
英 語 I	1				
英 語 II	1	後 期	演 習		
英 語 III	1	前 期	演 習		
英 語 IV	1				
中 国 語 I	1	前 期	演 習		
中 国 語 II	1	後 期	演 習		
日 本 語 I	1	前 期	演 習		
日 本 語 II	1	後 期	演 習		
国 際 交 流	1	集 中	実 習		
情 報 処 理 論	2	前 期	講 義		

② 専門教育科目

	授 業 科 目	単 位 数	開 講 期		授 業 形 態	履 修 上 の 注 意	
			1 年	2 年			
必 修 科 目	音 楽Ⅰ（声 楽）	1	後 期		演 習	◎	
	音 楽Ⅱ（器 楽）	1	前 期		演 習	◎	
	音 楽Ⅲ（器 楽）	1		前 期	演 習		
	音 楽Ⅳ（アンサンブル）	1	前 期		演 習	◎	
	図 画 工 作Ⅰ	1		前 期	演 習		
	図 画 工 作Ⅱ	1		後 期	演 習		
	幼 児 体 育Ⅰ	1		前 期	演 習		
	幼 児 体 育Ⅱ	1		後 期	演 習		
	保 育 者 論（＝教 師 論）	2		前 期	講 義		
	教 育 原 理	2	前 期		講 義	◎	
	教 育 心 理 学	2		前 期	講 義		
	教 育 行 政 論	2		後 期	講 義		
	教 育 課 程 論	2		前 期	講 義		
	保 育 内 容 総 論	1		前 期	演 習		
	保 育 内 容	健 康	1	前 期		演 習	◎
		人 間 関 係	1		後 期	演 習	
		環 境	1	後 期		演 習	◎
		言 葉	1	後 期		演 習	◎
		表 現Ⅰ	1	後 期		演 習	◎
		表 現Ⅱ	1	前 期		演 習	◎
	表 現Ⅲ	1	前 期		演 習	◎	
	教 育 方 法 論	2	後 期		講 義	◎	
	教 育 相 談	2		前 期	講 義		
	保 育・教 職 実 践 演 習（幼 稚 園）	2		後 期	演 習		
	教 職 実 践 基 礎 演 習	1		前 期	演 習		
	教 育 実 習 （ 幼 稚 園 ）	実 習 指 導 実 習	5	後 期	通 年	演 習	◎
				後 期	実 習		
選 択 科 目	児 童 家 庭 福 祉	2		後 期	講 義	保 育 士 必 修	
	社 会 福 祉	2	前 期・後 期		講 義	保 育 士 必 修 ◎	
	相 談 援 助	1		前 期	演 習	保 育 士 必 修	
	保 育 原 理Ⅰ	2	後 期		講 義	保 育 士 必 修 ◎	
	子 ども の 保 健Ⅰ	2	前 期		講 義	保 育 士 必 修 ◎	
	子 ども の 保 健Ⅱ	2	後 期		講 義	保 育 士 必 修 ◎	
	子 ども の 保 健Ⅲ	1		後 期	演 習	保 育 士 必 修	
	社 会 的 養 護	2	前 期		講 義	保 育 士 必 修 ◎	
	保 育 の 心 理 学Ⅰ	2	前 期		講 義	保 育 士 必 修 ◎	
	子 ども の 食 と 栄 養Ⅰ	1	前 期		演 習	保 育 士 必 修 ◎	
子 ども の 食 と 栄 養Ⅱ	1	後 期		演 習	保 育 士 必 修 ◎		

◎は実習受講のための基準科目

	授 業 科 目	単 位 数	開 講 期		授 業 形 態	履 修 上 の 注 意
			1 年	2 年		
選 択 科 目	家 庭 支 援 論	2	後 期		講 義	保育士必修 ◎
	乳 児 保 育 I	1	前 期		演 習	保育士必修 ◎
	乳 児 保 育 II	1	後 期		演 習	保育士必修 ◎
	障 害 児 保 育 I	1		前 期	演 習	保育士必修
	障 害 児 保 育 II	1		後 期	演 習	保育士必修
	社 会 的 養 護 内 容	1	後 期		演 習	保育士必修 ◎
	保 育 相 談 支 援	1		後 期	演 習	保育士必修
	保 育 の 心 理 学 II	1		後 期	演 習	保育士必修
	施 設 実 習 I	2		後 期	実 習	保育士必修
	保 育 所 実 習 I	2		後 期	実 習	保育士必修
	保 育 実 習 指 導 I	2	通 年		演 習	保育士必修 ◎
	保 育 所 実 習 II	2		後 期	実 習	} 2科目中1科目保育士必修
	施 設 実 習 II	2		後 期	実 習	
	保 育 実 習 指 導 II	1		通 年	演 習	保育士必修 ◎
	保 育 原 理 II	2		前 期	講 義	
	精 神 保 健	2		前 期	講 義	
	臨 床 心 理 学	2		後 期	演 習	
	子 ど も の 保 健 IV	2		前 期	講 義	
	保 育 内 容 / 表 現 IV	1				休講
	児 童 文 化	2	後 期		講 義	
音 楽 V (声 楽)	1		前 期	演 習		
音 楽 VI (器 楽)	1	後 期		演 習		
音 楽 VII (器 楽)	1		後 期	演 習		
幼 児 と 国 語	2	前 期		講 義		

◎は実習受講のための基準科目

2 履修上の注意

(1) 教養科目

卒業するためには、計10単位以上修得する必要があります。

なお、日本国憲法・人権教育・体育Ⅰ・Ⅱ（講義及び実技）・英語ⅢおよびⅡ・情報処理論は必ず修得してください。

(2) 専門教育科目

卒業するためには、52単位修得する必要があります。なお、幼稚園教諭二種免許状取得に要する単位もすべて卒業要件単位の中に含まれています。

ただし、保育士資格を取得しようとするものは、さらに、保育士必修科目と通知別表による教科目の中から9単位以上を修得する必要があります。

（P.27～の保育士資格取得要項を参照してください。）

(3) クラス指定のある授業科目は、その指定された時間に履修してください。

(4) 無断欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合は必ず事前に科目担当者又は教務課に届け出てください。

(5) 提出物（事務的書類、レポートなど）の期限を厳守しましょう。

幼児教育学科 カリキュラムマップ (カリキュラムツリーを含む)

履修年次	期	授業科目名	① 保 育 者 観	② 知 識・ 教 養	③ 保 育 実践力	④ 社会人 基礎力
1年次	通 年	初年次教育	◎	◎	◎	◎

実習 関 連 科 目	必修/選択	保育士	授 業 科 目	① 保 育 者 観	② 知 識・ 教 養	③ 保 育 実践力	④ 社会人 基礎力
	必修科目			教育実習 実習指導 (幼稚園) 実習	◎ ◎	◎	○ ◎
選択科目	必		保育実習指導Ⅰ	○	○	◎	◎
			保育実習指導Ⅱ	◎	○	◎	○
			保育所実習Ⅰ	◎	○	◎	◎
			施設実習Ⅰ	◎	○	◎	◎
選			保育所実習Ⅱ	◎	○	◎	◎
			施設実習Ⅱ	◎	○	◎	◎

履修年次	期	必修/選択	保育士	授 業 科 目	① 保 育 者 観	② 知 識・ 教 養	③ 保 育 実践力	④ 社会人 基礎力
1 年 次 履 修 科 目	前期	必修科目		健康	◎	◎	○	○
				保育内容 表現Ⅱ	○	◎	◎	○
				表現Ⅲ	○	◎	◎	○
				音楽Ⅱ (器楽)	○	◎	◎	○
				音楽Ⅳ (アンサンブル)	○	○	◎	○
				教育原理	◎	◎	○	○
	必			子どもの保健Ⅰ	◎	◎	○	○
				社会的養護	◎	◎	○	○
				保育の心理学Ⅰ	◎	◎	○	○
				子どもの食と栄養Ⅰ	○	◎	◎	○
選択科目	必 選		乳児保育Ⅰ	○	◎	◎	○	
			幼児と国語	◎	◎	○	◎	
通年	必修科目	必		社会福祉	○	◎	○	○
後期	必修科目			環境	◎	◎	◎	○
				保育内容 言葉	◎	◎	○	◎
				表現Ⅰ	◎	◎	○	◎
				音楽Ⅰ (声楽)	○	◎	◎	○
				教育方法論	◎	◎	◎	○
				保育原理Ⅰ	◎	◎	○	○
	必			子どもの保健Ⅱ	○	◎	◎	○
				子どもの食と栄養Ⅱ	◎	◎	◎	○
選択科目	必			家庭支援論	◎	◎	○	○
				乳児保育Ⅱ	○	◎	◎	○
選				社会的養護内容	○	◎	○	◎
				音楽Ⅵ (器楽)	○	◎	◎	○
				児童文化	○	○	◎	○

履修年次	期	必修／選択	保育士	授 業 科 目	① 保 育 者 観	② 知 識・ 教 養	③ 保 育 実 践 力	④ 社 会 人 基 礎 力
2 年 次 履 修 科 目	前期	必修科目		音楽Ⅲ（器楽）	○	◎	◎	○
				図画工作Ⅰ	○	◎	◎	○
				幼児体育Ⅰ	◎	○	◎	○
				保育者論（＝教師論）	◎	◎	○	○
				教育心理学	◎	◎	○	○
				教育課程論	◎	◎	◎	○
				保育内容総論	◎	○	◎	◎
	教育相談	○	◎	◎	○			
	教職実践基礎演習	◎	○	◎	◎			
		必		相談援助	◎	◎	◎	◎
		必		障害児保育Ⅰ	◎	◎	◎	◎
		選択科目	選	音楽Ⅴ（声楽）	○	◎	◎	
	保育原理Ⅱ			○	○	◎		
	子どもの保健Ⅳ			○	◎	○	○	
			精神保健	◎	◎	○	○	
	後期	必修科目		保育内容 人間関係	◎	◎	○	○
図画工作Ⅱ				○	◎	◎	○	
幼児体育Ⅱ				◎	○	◎	○	
教育行政論				◎	◎	○	○	
保育・教職実践演習（幼稚園）		◎	○	◎	◎			
		必		児童家庭福祉	◎	◎	○	○
				子どもの保健Ⅲ	○	◎	◎	◎
	選択科目	必	障害児保育Ⅱ	◎	◎	◎	◎	
保育相談支援			◎	◎	◎	◎		
保育の心理学Ⅱ			○	◎	◎			
		選	音楽Ⅶ（器楽）	○	◎	◎	○	
			保育内容／表現Ⅳ	○	○	◎		
			臨床心理学	○	○	○	○	

Ⅱ 生活実践科学科授業科目および履修方法

1 授業科目表

① 教養科目

	授 業 科 目	単 位 数	開 講 期		授 業 形 態	履 修 上 の 注 意
			1 年 ・ 2 年			
教 養 科 目	哲 学	2	前 期	講 義	※教職必修 ※教職必修 外国人留学生・帰国子女のみ ※教職必修 ※教職必修 この中から2単位必修 外国人留学生・帰国子女のみ	
	倫 理 学	2	前 期	講 義		
	歴 史	2	前 期	講 義		
	美 術	2	後 期	講 義		
	音 楽	2	後 期	講 義		
	文 学	2	前 期	講 義		
	心 理 学	2	前 期・後 期	講 義		
	人 文 地 理	2	後 期	講 義		
	社 会 学	2	後 期	講 義		
	法 学	2	前 期	講 義		
	日 本 国 憲 法	2	前 期	講 義		
	人 権 教 育	2	後 期	講 義		
	数 学	2	前 期	講 義		
	化 学	2	前 期	講 義		
	生 物 学	2	後 期	講 義		
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン 論	2	後 期	講 義		
	イ ン タ ー ン シ ッ プ I	1	後 期	実 習		
	イ ン タ ー ン シ ッ プ II	1	後 期	実 習		
	ボ ラ ン テ ィ ア 入 門	2	前 期	講 義		
	日 本 事 情 I	2	前 期	講 義		
日 本 事 情 II	2	後 期	講 義			
体 育 I (講義及び実技)	1	前 期	講 義			
体 育 II (講義及び実技)	1	後 期	実 技			
英 語 I	1	前 期	演 習			
英 語 II	1	後 期	演 習			
英 語 III	1	前 期	演 習			
英 語 IV	1	後 期	演 習			
中 国 語 I	1	前 期	演 習			
中 国 語 II	1	後 期	演 習			
日 本 語 I	1	前 期	演 習			
日 本 語 II	1	後 期	演 習			
国 際 交 流	1	集 中	実 習			

② 専門教育科目

	授 業 科 目	単 位 数	開 講 期		授 業 形 態	履 修 上 の 注 意		
			1 年	2 年				
必 修 科 目	生活実践論Ⅰ（家庭経営）	2	前 期		講 義			
	生活実践論Ⅱ（衣）(衣料学を含む)	2	後 期		講 義			
	生活実践論Ⅲ（食）(食品学を含む)	2	前 期		講 義			
	生活実践論Ⅳ（住 居）	2	前 期		講 義			
	生活実践論Ⅴ（環 境）	2	後 期		講 義			
	生活実践論Ⅵ（経 済）	2		前 期	講 義			
	生活実践論Ⅶ（情 報）	2	後 期		講 義			
	生活実践論Ⅷ（ことばと生活）	2		前 期	講 義			
	教養対話演習Ⅰ	1	前 期		演 習			
	教養対話演習Ⅱ	1	後 期		演 習			
	生活実践科学演習Ⅰ	1		前 期	演 習			
	生活実践科学演習Ⅱ	1		後 期	演 習			
	選 択 科 目	家 族 関 係 学	2		後 期		講 義	教職必修
		被 服 整 理 ・ 衛 生 学	2		前 期		講 義	
生 活 美 学		2		前 期	講 義			
被 服 構 成 学		2	前 期		講 義	教職必修		
栄 養 学		2	後 期		講 義			
食 品 衛 生 学		2		前 期	講 義			
食 の 文 化 論		2		前 期	講 義			
調 理 学		2	前 期		講 義			
健 康 管 理 学		2		前 期	講 義			
保 育 学		2		前 期	講 義	教職必修		
家 庭 看 護 学		2		前 期	講 義			
社 会 心 理 学		2		後 期	講 義			
家 族 心 理 学		2		前 期	講 義			
日 本 語 表 現 法	2	後 期		講 義				

	授 業 科 目	単 位 数	開 講 期		授 業 形 態	履 修 上 の 注 意
			1 年	2 年		
選 択 科 目	日 本 語 表 現 法 演 習 I	1	前 期		演 習	教職必修
	日 本 語 表 現 法 演 習 II	1		前 期	演 習	
	文書表現Ⅰ（ビジネス文章を含む）	2	前 期		講 義	
	文書表現Ⅱ（ビジネス文章を含む）	2		後 期	講 義	
	事 務 管 理	2		後 期	講 義	
	生 活 簿 記 ・ 会 計 論	2		後 期	講 義	
	情 報 処 理 I	1		前 期	演 習	
	情 報 処 理 II	1		後 期	演 習	
	生 活 情 報 演 習 I	1		前 期	演 習	
	生 活 情 報 演 習 II	1		後 期	演 習	
	被 服 構 成 学 実 習 I	2	前 期		実 習	
	被 服 構 成 学 実 習 II	2	後 期		実 習	
	調 理 実 習 I	2	前 期		実 習	
	調 理 実 習 II	2	後 期		実 習	
	調 理 実 習 III	2		前 期	実 習	
	調 理 実 習 IV	2		後 期	実 習	
	工 芸 実 習 I	2		前 期	実 習	
	工 芸 実 習 II	2		後 期	実 習	

選 択 科 目	特 別 講 義 I	後 期		講 義	
	特 別 講 義 II	後期集中		講 義	

2 履修上の注意

卒業要件単位

教 養 科 目	必修	(外国語) 2単位	1・2年次	10単位以上 (単位互換 科目を含む)
	選択	8単位	1・2年次	
専 門 教 育 科 目	必修	(12科目) 20単位	1年次14単位 2年次6単位	
	選択	22単位	1・2年次	
合 計	62 単 位 以 上			

- (1) 1年次は、合計34単位（教養科目および専門教育科目の必修科目14単位を含む）程度履修してください。
ただし、心理学、人文地理などの科目は複数で開講されていますが、同じ科目を複数履修することはできません。
- (2) 2年次は、単位が不認定になる場合もあることを考え、1年次修得単位と合わせて合計66単位以上履修してください。
- (3) 就実大学の単位互換科目の中から10単位の範囲内で卒業要件単位として算入することができます。
- (4) 1・2年次に開講されている実験・実習・演習科目は、できるだけ履修してください。被服構成学実習Ⅱ、調理実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修する場合は、被服構成学実習Ⅰ、調理実習Ⅰを履修していることが望ましいです。
- (5) 希望者は各々所定の単位を別に修得すれば、教育職員免許状、図書館司書資格、秘書士資格、秘書士（メディカル秘書）資格、情報処理士資格、プレゼンテーション実務士資格、介護職員初任者研修修了資格などを取得することができます。また、学校図書館司書教諭は、教育職員免許状と合わせて取得できます。
ただし、資格に関する単位は卒業要件単位には算入できません。
- (6) クラス指定のある科目は、指定通りに履修してください。
ただし、資格課程希望者は、時間割上その資格取得に必要な科目が、専門教育科目と重なる場合は、クラス指定をはずして受講できるので申し出てください。
- (7) 秘書士に関する科目の1年次に開講されているビジネス情報演習Ⅰ・Ⅱはパソコンを中心とした授業なのでできるだけ履修してください。
- (8) 就職希望者のために、特別講義Ⅰ（1年次後期）と、特別講義Ⅱ（1年次後期集中）が開講されます。
この、「特別講義Ⅰ」は、就職登録や就職に関連した講座が組まれています。就職希望者は必ず履修してください。
また「特別講義Ⅱ」では、就職試験対策として、コミュニケーション能力向上のための講座を短期間で集中的に行います。

生活実践科学科 カリキュラムマップ 専門科目

	生活に必要な知識	生活に必要な技術	問題設定力	情報収集力	読解分析力	表現力
生活実践論Ⅰ（家庭経営）	○	○	○	○		
生活実践論Ⅱ（衣）(衣料学を含む)	○	○		○		
生活実践論Ⅲ（食）(食品学を含む)	○		○	○		
生活実践論Ⅳ（住居）	○	○		○		
生活実践論Ⅴ（環境）	○		○	○		
生活実践論Ⅵ（経済）	○		○	○		
生活実践論Ⅶ（情報）	○		○	○		
生活実践論Ⅷ（ことばと生活）		○	○			○
教養対話演習Ⅰ	○		○	○	○	○
教養対話演習Ⅱ	○		○	○	○	○
生活実践科学演習Ⅰ	○		○	○	○	○
生活実践科学演習Ⅱ	○		○	○	○	○
家族関係学	○	○	○	○		
被服整理・衛生学	○	○		○		
生活美学	○	○		○		
被服構成学	○	○		○		
栄養学	○	○				
食品衛生学	○	○				
食の文化論	○			○	○	
調理学	○	○				
健康管理学	○	○				
保育学	○	○	○			
家庭看護学	○	○	○			
社会心理学	○		○			
家族心理学	○		○			
日本語表現法	○				○	○
日本語表現法演習Ⅰ			○		○	○
日本語表現法演習Ⅱ			○		○	○
文書表現Ⅰ（ビジネス文章を含む）			○	○		○
文書表現Ⅱ（ビジネス文章を含む）			○	○		○
事務管理			○	○	○	
生活簿記・会計論			○		○	
情報処理Ⅰ		○		○		○
情報処理Ⅱ		○		○		○
生活情報演習Ⅰ			○	○	○	
生活情報演習Ⅱ			○	○	○	
被服構成学実習Ⅰ	○	○		○		
被服構成学実習Ⅱ	○	○		○		
調理実習Ⅰ	○	○		○	○	
調理実習Ⅱ	○	○		○	○	
調理実習Ⅲ	○	○		○		
調理実習Ⅳ	○	○		○		
工芸実習Ⅰ	○	○				○
工芸実習Ⅱ	○	○				○
特別講義Ⅰ（就職）				○	○	○
特別講義Ⅱ（就職）				○	○	○

生活実践科学科 カリキュラムツリー 専門科目

1年次		生活科学の基礎的知識の学習と実践 コミュニケーション技術の開拓	2年次		生活科学技術の応用と実践 コミュニケーション能力の向上
		1年次			2年次
専 門 教 育 科 目	必 修 科 目	生活実践論Ⅰ(家庭経営)	生活実践論Ⅵ(経済)		
		生活実践論Ⅱ(衣)(衣料学を含む)	生活実践論Ⅷ(ことばと生活)		
		生活実践論Ⅲ(食)(食品学を含む)	生活実践科学演習Ⅰ		
		生活実践論Ⅳ(住居)	生活実践科学演習Ⅱ		
		生活実践論Ⅴ(環境)			
		生活実践論Ⅶ(情報)			
		教養対話演習Ⅰ			
		教養対話演習Ⅱ			
	選 択 科 目	被服構成学	家族関係学		
		栄養学	被服整理・衛生学		
		調理学	生活美学		
		日本語表現法	食品衛生学		
		日本語表現法演習Ⅰ	食の文化論		
		文書表現Ⅰ	健康管理学		
		被服構成学実習Ⅰ	保育学		
		被服構成学実習Ⅱ	家庭看護学		
		調理実習Ⅰ	社会心理学		
		調理実習Ⅱ	家族心理学		
		特別講義Ⅰ(就職)	日本語表現法演習Ⅱ		
		特別講義Ⅱ(就職)	文書表現Ⅱ		
			事務管理		
			生活簿記・会計論		
			情報処理Ⅰ		
			情報処理Ⅱ		
			生活情報演習Ⅰ		
			生活情報演習Ⅱ		
			調理実習Ⅲ		
		調理実習Ⅳ			
	工芸実習Ⅰ				
	工芸実習Ⅱ				

幼児教育学科・生活実践科学科共通カリキュラムマップ 教養科目

多様な分野の基礎的教養を身につける 各分野を1・2年次でバランスよく履修する		
授 業 科 目		目 標
教	哲 学	豊かな人間性を身につける
	倫 理 学	
	歴 史	
	美 術	
	音 楽	
	文 学	
養	心 理 学	人間社会や人間関係の理解を深める
	人 文 地 理	
	社 会 学	
	法 学	
	日 本 国 憲 法	
	人 権 教 育	
科	数 学	情報処理に必要な数の理解や生態系を学ぶ
	化 学	
	生 物 学	
	情 報 処 理 論*	
目	キャリアデザイン論	世の中の動向に関心を持ち、社会性を身につける
	インターンシップⅠ	
	インターンシップⅡ	
	ボランティア入門	
	◆日本事情Ⅰ	異文化を理解する
	◆日本事情Ⅱ	
	体育Ⅰ（講義及び実技）	健康な生活を送る
	体育Ⅱ（講義及び実技）	
	英 語 Ⅰ	異文化を理解する
	英 語 Ⅱ	
英 語 Ⅲ		
英 語 Ⅳ		
中 国 語 Ⅰ		
中 国 語 Ⅱ		
◆日 本 語 Ⅰ		
◆日 本 語 Ⅱ		
国 際 交 流		

*：幼児教育学科のみ。

◆：外国人留学生・帰国子女のみ。